

相談分科会勉強会について（案）

1 現状

障害者相談支援は、本人のニーズに寄り添い、地域生活への意向や安定した生活に向け、様々な情報提供をはじめ、自己決定に必要な提案、助言、支援を行うという極めて重要な役割を担っている。

そこには、制度・サービスありきではなく、利用者のニーズや望む暮らしを実現するために、地域の社会資源を活用し支援計画を作成・実行するとともに、地域のネットワークや社会資源の改善・開発にむけたまちづくりに努めるといった役目も担っている。

その課題を解決するために、毎月1回相談支援専門員が集まって情報交換や研修を実施している。

また、平成29年8月からは、久留米市地域生活支援協議会のなかの相談分科会としての位置づけで活動し、事務局会議を開催して相談支援における課題を整理し今後の研修等の企画を行っている。

くるめ相談ネットでは、これまで相談支援専門員の質の向上と情報交換等で久留米市の相談支援のネットワークを構築してきた。しかし、個々の相談支援専門員の感性や力量、事業所の経営基盤等に頼るところも多く、財源・人員体制の脆弱さを背景に、結果として相談員のバーンアウトや、セルフプランの減少率の低さといった現状があり、これを解消するために平成30年度は、相談支援専門員の知識・技術・価値を高めることに主眼を置き、外部講師を招いての研修等を実施した。

<外部講師による研修（平成30年8月～令和1年7月）>

- ① 平成30年8月16日 実施
講演・グループワーク「連携について」
講師：倉知延章教授（九州産業大学教授）
- ② 平成31年1月17日 実施
内容：「倫理・価値に基づいたソーシャルワーク実践」
講師：片岡靖子准教授（久留米大学）
- ③ 平成31年2月21日 実施
内容：「ケースメソッドを用いた実践力の向上」
講師：片岡靖子准教授（久留米大学）
- ④ 令和1年5月16日
内容：「発達障がいの子どもの地域でみるということ」
講師：家村明子医師（久留米市幼児教育研究所）

<くるめ相談ネット会員へのアンケート実施>

アンケート結果（平成30年4月～平成31年3月） 回答者36名

① くるめ相談ネットに参加する目的

相談支援専門事業所間のネットワーク作り、情報交換・・・	26
相談支援技術、専門性のための研修機能・・・	27
困難ケースでの事例検討（ピアスーパービジョン）・・・	17
社会資源の情報収集・・・	27

② 参考になった内容

1月：「倫理と価値に基づいた相談支援の実践について」 講師：片岡靖子准教授（久留米大学）	
2月：「ケースメソッドを用いた治癒力の向上」 講師：片岡靖子准教授（久留米大学）	
5月：相談支援報酬改定、行政報告	
10月：「発達が気になる子の特性理解と支援について」 講師：早川 成理事長（天使幼稚園）	

③ くるめ相談ネットの形式

研修会・・・	25
事例検討・・・	19
グループワーク・・・	15
社会資源の情報交換・・・	19
その他・・・	1

④ 相談ネットのかたち

今のまま・・・	16
他のやりかたも検討・・・	11

例)

- ・ 居宅介護事業所や訪問看護事業所との情報交換
- ・ サビ管、児発管も交えた研修
- ・ 東西南北エリア毎に多職種もまじえた情報交換
- ・ 新しい事業所紹介
- ・ 事例検討を増やして体験

⑤ 今後、取り上げてもらいたいテーマや希望する講師について（例）

- ・ 制度と現実のグレーゾーン。
- ・ 知的障害者の性の問題
- ・ 出産後のサポート体制
- ・ 久留米のインフォーマルサービスの紹介・活用について

- ・障害児のケアマネジメントの進め方（本人・家族との関わり方）
- ・野中式事例検討
- ・金銭面でうまくいかないケース（借金過多や仕事が続かない等）の対応事例
- ・利用者の方々への具体的な提案力を向上できる技術
- ・協議会・分科会での取り組みの報告や、相談員から分科会への要望、意見交換など、話し合う場がほしい
- ・病院ソーシャルワーカーとの連携について
- ・請求業務、加算の細部を確認したい
- ・医療保険や年金について
- ・片岡先生の講義
- ・家族療法
- ・ケースメソッド
- ・面接技術

2 課題

今年5月に実施したアンケートでは、専門家からのスーパーバイズを希望している相談支援専門員が多かったことから、外部講師を招いての研修会を企画し、講師謝金と交通費を計上した。

アンケートでは、上記アンケート結果②に記載のように、外部講師の講義に対して参考になったと返答する者が多く、今後も外部講師を希望する回答が得られた。その他にも相談支援専門員が関わっているケースにおいて対応に困り対応策や相談先を求めている方もいる。

来年度も外部講師による研修を継続実施するとともに事例検討を実施し、相談支援専門員のスキルアップを図っていく必要がある。

3 改善の目的

- (1) 障害児・者に対する支援基盤の整備として相談支援専門員同士の情報交換及び相談支援専門員の資質の向上を図る。
- (2) 学習等を深めていくことで、それまで対応することなどがなかったケース等も引き受けることができるよう相談支援専門員のキャパシティの拡充を狙う。
- (3) 相談支援専門員それぞれが持つ事例等を通して地域に潜んでいる課題等を抽出するとともに制度の整備を検討する。

4 改善の基本方針

セルフプラン率のさらなる抑制につながる取り組みの一環として、平成31年度も引き続き相談支援専門員の要望に沿ったテーマでの研修会を以下のとおり実施し、相談支援専門員のスキルアップを図っていく。

【来年度のおおまかな研修内容】

- ① 災害対応・勉強会、ヘルプカード、チェックリスト

- ② 地域課題・・個別課題の吸い上げと施策推進部会への投げかけ
- ③ 勉強会・・・自立支援医療、手当、権利擁護等
- ④ 意見交換会
- ⑤ 分科会の紹介（久留米市生活協議会）
- ⑥ 事例検討会（エリア毎）

5 改善の内容

(1) 外部講師による研修

外部講師による研修会を年12回のうち5回程度実施予定

研修内容（仮）

- ① 年金のしくみ、申請等
- ② 地域課題の吸い上げ（仮）
- ③ 権利擁護、意思決定支援
- ④ 発達障害について
- ⑤ 災害について

6 期待される効果

- (1) 研修を通じた学びによって、個々のスキルアップや計画の策定における相談支援専門員の質の向上。
- (2) これまで対応したことのない事例等について議論を重ねることによる、相談支援専門員のキャパシティの拡充。
- (3) 地域に潜んでいる課題について議論を重ねることによる、必要に応じた施策への提言や、住民の生活ニーズの充足。

7 スケジュール

令和1年度 方針と内容を決定

令和2年度 講師や詳細な内容については、大まかに決定しているが、担当月3か月前頃をめどに事務局会議で調整していく。